

報 告 書

調査・研究テーマ	アーツカウンシル事業の成果と課題について
目 的	「名古屋版アーツカウンシル」クリエイティブ・リンク・ナゴヤの取り組みを伺い、本市の事業に生かすため。
内 容	<p>日 時：2024年5月14日（火）9：30～11：00 視察先：クリエイティブ・リンク・ナゴヤ （名古屋市中区栄3-18-1） 対 象：名古屋版アーツカウンシルについて 説 明：名古屋市観光文化交流局 文化歴史まちづくり部 文化芸術推進課 課長 谷 太陽 氏 クリエイティブ・リンク・ナゴヤディレクター 佐藤 友美 氏 参加者：阪本 克己、添野心み子、西山 幸代、高柳 俊哉、 三神 尊志、佐伯加寿美、出雲 圭子、松本 翔、 佐々木郷美、堤 日出喜、相川 綾香、永井 里菜 報告書作成者：相川 綾香</p> 

概要



多様な文化芸術活動をより活性化し、まちの魅力づくりにつなげていくことを目的に、2022年10月に設置。

きっかけは文化芸術振興基本法から文化芸術基本法に改正したこと。

取り組みの3つの柱としては、「助成・支援」、「パイロット事業」（新しい事業の前哨戦企画）、「調査研究」を行っている。

使命は以下の3つである。

- 文化芸術と他分野の連携を促進し、波及効果を創出すること
- 地域の文化芸術活動に対し、専門的見地から戦略的に支援すること
- 取り組みの成果を名古屋市の文化政策に反映すること

「アートパーク」という昨年行ったパイロット事業は、市営の公園（※）を舞台に、アーティストとともに絵を描くイベントを開催するなど、パフォーマンス、準備体操、DJ、音楽ライブなどとともに誰もが楽しみながらアートに触れられる場となった。

課題としては、行政の実施する文化芸術に関する取り組みの役割分担の整理、他分野連携のコーディネート機能の強化、組織の今後の在り方などをあげていた。

※「Hisaya-Odori Park」

2024年5月13日（月）

21:30~22:00

「名古屋市久屋大通公園のPark-PFIにおける夜間の集客について」視察を行った。



<p style="text-align: center;">成 果</p>	<p>政令市でも近年続々とアーツカウンシル事業が立ち上がり、それぞれ市独自の特徴をもった文化芸術推進体制が繰り広げられている。昨年の会派視察で伺った堺市アーツカウンシルについての話も交え、政令指定都市のアーツカウンシル設置や内容について、今回の名古屋市での説明を受けた。</p> <p>名古屋市には優れたアーティストや団体も多い。しかし、行政がその活動の更なる躍進について連携していくには、非常に難しさが伴っている。芸術祭についての行政側の評価は集客を達成値として示しているが、市民の意識や文化芸術的な質の向上を目的としていく視点が必要ではないか等、常に議論が分かれている。これは本市も同様である。</p> <p>本市では、3年に1度の芸術祭開催中に市内各所でイベントが開催されているが、昨年アーツカウンシルさいたまが設置されたことから、普段からアートに触れることのできる機会をもっと増やしていくべきと考える。そして、芸術文化団体と福祉、教育、医療、介護などと連携し、文化芸術をただの文化や芸術だけに留まらせず、社会課題解決の手法として重要な役割を持たせ、住民福祉の向上という面からも取り組む必要があるのではないかと感じた。単年度決算となると上記のような効果を事業評価として示すことはなかなか難しいが、文化芸術施策を長く続けていくために、行政やアーツカウンシルさいたまが、アーティストや芸術文化団体に寄り添い続け味方となり、成果が目に見えるようになるまでを信じていくことが大切である。また、名古屋市のように芸術祭参加者から参加費を徴収することも、事業予算を削減できる手段と成り得るので一考してみる必要もあるかもしれない。</p> <p>今後、所管委員会や本会議での質問を通じて、文化芸術における本市との協働事業などを要望していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">基本方針</p>	<p>13. 多様な価値観と人権尊重・ジェンダー平等の推進 14. 誰もが健康で心豊かにスポーツ・文化にふれあえるまち 15. 市民協働・公民学連携による地域課題の解決</p>